

令和元年6月21日現在

機関番号：32610

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02441

研究課題名(和文)大沼枕山明治期詩業の比較文学的研究

研究課題名(英文) A Comparative Literary Study on Ohnuma Chinzan's Poetic Works of the Meiji Period

研究代表者

せん 満江 (ZHAN, Manjiang)

杏林大学・外国語学部・教授

研究者番号：90206657

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：大沼枕山明治期詩業の『歴代詠史百律』百三首全てに詳細な訳注を施した。研究期間中、国立歴史民俗博物館、福生市郷土資料室、会津若松市立会津図書館、茨城大学図書館、西尾市岩瀬文庫、蓬左文庫等を調査し、枕山の書簡、逸詩、軸物や扇面への揮毫、鈔本の『詠物詩』等の存在を確認した。また、国文学研究資料館、国立公文書館、国会図書館、大阪大学図書館、藝術大学図書館等を調査し、訳注を施した『歴代詠史百律』には二種類のテキストがあることを究明した。さらに、訳注を施す課程で得た枕山の詠史詩の特徴についての知見を、「大沼枕山と陶淵明」、「幕末明治期における詠史百首流行と『歴代詠史百律』」など、数篇の論考にまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本漢詩文の研究はまだ着手されたばかりの段階と言わざるを得ないが、幕末明治期最大の漢詩人大沼枕山の研究は特に進んでいない。就中その明治期の詩は僅か百三十数首が遺稿として纏められているにすぎず、その詩業のほとんどは輯佚もされず、機関誌や雑誌に埋もれ、あるいは散逸し、研究されないままである。

本研究は大沼枕山の明治期の詩業の一部を明らかにするものであり、学界に一石を投ずることになるはずである。枕山の『歴代詠史百律』は、彼の明治期の詩業の中の代表的な作品集であり、今回、初めて訳注が施され、近いうちに出版される予定であるので、一般の読者にも歓迎され、広く受容されることを企図している。

研究成果の概要(英文)：We translated and annotated all 103 poems in “Rekidai Eishi Hyakuritsu,” one of Ohnuma Chinzan’s poetic works of the Meiji period. We researched the National Museum of Japanese History, Fussa City Local History Museum, Aizuwakamatsu City Aizu Library, Ibaraki University Library, Nishio City Iwase Library, Housa Library, etc. and found Ohnuma Chinzan’s letters, little-known poems, handwriting on jikumono (scrolls) and senmen (fans), and an extract copy of “Eibutsushi” (poems celebrating various things). At last, we cleared up the fact that there are two texts of “Rekidai Eishi Hyakuritsu.” We compiled our findings in some theses, for example, “Ohnuma Chinzan and Tao Yuanming,” and “Popularity of Eishi Hyakushu” and “Rekidai Eishi Hyakuritsu” in the last days of the Tokugawa Shogunate and the Meiji period.” Those are the results from our translation and annotation of “Rekidai Eishi Hyakuritsu.”

研究分野：中国文学

キーワード：日本漢詩 大沼枕山 詠史詩

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本漢詩の研究は、従来、国文学研究者からも中国文学研究者からも閑却されてきた嫌いがある。近年、和漢比較文学学会が発足し、日本中国学会に日本漢文部会ができるなど、国文学・中国文学双方の研究者の多くが日本漢詩文を研究対象とするようになってきたとはいえ、いまだ十分に研究されてきたとはいえない。特に、日本漢詩最盛期とされる幕末明治期の研究は、ようやく緒に就いたばかりの状況である。本研究において、幕末明治期最大の漢詩人の一人、大沼枕山の詩業、それも明治期の詩業を対象とするのは、そのような背景があるからである。

2. 研究の目的

本研究の目的は大きく二つある。一つは大沼枕山の詩業の全貌を捉えるための基礎資料の収集である。特に、明治期以降の詩を輯佚することが重要であり、さらに、まだ手付かずの詩集に訳注を施すという基礎研究を行って、さらなる研究のための基盤を整備する。もう一つは枕山の詩業以外の活動を多角的に研究するために必要な資料の収集と目録作成である。吟社の同人の詩集や他の詩人の別集や選集の編纂、作詩の参考書の執筆、後進の詩人の作品の添削など、その漢詩人としての活動の全貌を明らかにするための基盤を整備する。

3. 研究の方法

大沼枕山明治期の詩業を明らかにするために、三分野に分けて研究を進める。

(1) 目録作成 枕山が編纂に関わった他の詩人の別集・総集・選集等を調査収集し、その書誌を書き、さらに門人との交流を跡付ける書簡についても調査して、それらの目録を作成する。

(2) 枕山詩輯佚 明治期の新聞雑誌・吟社の機関誌等を調査し、枕山の別集には未収の詩を輯佚する。国内だけでなく、可能ならば国外にも調査範囲を広げる。

(3) 枕山詩訳注 明治期に成った『歴代詠史百律』に訳注を施す。作業に当たっては、日中比較文学的観点から、中国古典詩の先例と日本漢詩の先例を調査し、日中の詩人たちの歴史観の相違を明らかにしつつ、枕山の歴史観の特色を明らかにすることを主たる狙いとする。

4. 研究成果

(1) 目録作成 国立歴史民俗博物館、福生市郷土資料室、会津若松市立会津図書館、茨城大学図書館、西尾市岩瀬文庫、蓬左文庫等を調査し、大沼枕山の書簡、逸詩と思われる作が揮毫された軸物、逸句が揮毫された扇面、『歴代詠史百律』所収の詩が揮毫された軸物、その他、枕山の別集に未収の詩が掲載された単行本や雑誌、鈔本の『詠物詩』等の存在を確認した。大沼枕山関連資料の目録を作成するための記録はかなり得ることができた。

(2) 枕山詩輯佚 会津若松市立会津図書館、茨城大学図書館、西尾市岩瀬文庫において、「賀詞」と題する逸詩、扇面に枕山が揮毫した逸句、『東京名勝詞』『黄石斎第六集』『横浜八景』『耐軒詩草』『読史裸詠』『江戸年中行事詩』『寒香園百絶』等に掲載された逸詩を得ることができた。また、枕山の子孫のお宅を訪問し、所蔵の書籍、鈔本なども拝見させていただいた。その中には、詩ではないが、大沼枕山が著した文も含まれている。

(3) 枕山詩訳注 大沼枕山の明治期詩業を具体的に明らかにするために、『歴代詠史百律』全103首に訳注を施した。枕山が作詩当時に読んだと思われる漢籍や和刻本、また、観たと思われる水墨画、浮世絵なども調査し、枕山の詩句が影響を受けたと思われる用例等を探した。『歴代詠史百律』は、前漢から南宋までの人物を七言律詩に詠じた詩集であり、我々の主たる専門分野である六朝や唐の詩の範囲を超える宋以降の人物も含まれているので、ときに宋代を専門とする研究者に質問したり、王羲之や顔真卿などの書家も含まれているので、書道を専門としている研究者に尋ねたりして、訳注が可能な限り正確なものとなるように努めた。『歴代詠史百律』を所蔵している国文学研究資料館、国立公文書館、国会図書館、大阪大学図書館、芸術大学図書館等を調査したところ、本文の異同があることが判明し、二種のテキストがあることがわかった。訳注の底本には、その二種のうち、改訂が加えられた後の本を用いた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4 件)

大村和人、大沼枕山の文学世界における曹植「洛神賦」、狩野直禎先生追悼三国志論文集、査読無、2019年9月刊行予定、三国志学会

大村和人、大沼枕山の作品における陶淵明像と『歴代詠詩百律』の性質、日本漢文学研究、査読有、第14号、2019、pp21-44、二松學舎大学・東アジア学術総合研究所・日本漢学研究センター

<https://www.nishogakusha-u.ac.jp/eastasia/pdf/book-14kanbun-mokuji.pdf>

詹 満江、大沼枕山『歴代詠史百律』に描かれた隠逸の形象、杏林大学外国語学部紀要、査読有、第30号、2018、pp.1-11

詹 満江、大沼枕山『歴代詠史百律』に描かれた女性像、杏林大学外国語学部紀要、査読有、第29号、2017、pp.1-12

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：石川 忠久

ローマ字氏名：(ISHIKAWA, tadahisa)

所属研究機関名：二松學舎大学

部局名：

職名：名誉教授

研究者番号(8桁)：80112655

研究分担者氏名：澤崎 久和

ローマ字氏名：(SAWAZAKI, hisakazu)

所属研究機関名：福井大学

部局名：学術研究院・教育・人文社会系部門(教員養成)

職名：教授

研究者番号(8桁)：70145100

研究分担者氏名：三上 英司

ローマ字氏名：(MIKAMI, eiji)

所属研究機関名：山形大学

部局名：地域教育文化学部

職名：教授

研究者番号(8桁)：30219597

研究分担者氏名：大村 和人

ローマ字氏名：(OHMURA, kazuhito)

所属研究機関名：徳島大学

部局名：教養教育院

職名：准教授

研究者番号(8桁)：80431881

研究分担者氏名：高芝 麻子
ローマ字氏名：(TAKASHIBA, asako)
所属研究機関名：横浜国立大学
部局名：教育学部
職名：准教授
研究者番号(8桁)：80712744

研究分担者氏名：松浦 史子
ローマ字氏名：(MATSUURA, fumiko)
所属研究機関名：二松學舎大学
部局名：文学部
職名：准教授
研究者番号(8桁)：80570952

研究分担者氏名：遠藤 星希
ローマ字氏名：(ENDO, seiki)
所属研究機関名：法政大学
部局名：文学部
職名：講師
研究者番号(8桁)：30755278

(2)研究協力者

研究協力者氏名：市川 桃子
ローマ字氏名：(ICHIKAWA, momoko)

研究協力者氏名：有木 大輔
ローマ字氏名：(ARIKI, daisuke)

研究協力者氏名：大戸 温子
ローマ字氏名：(OHDO, haruko)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。